

# 2010 北海道トレセンU-13 冬季交流大会(8人制) 道東ブロック報告書

期 日 平成23年1月14・15日(金・土)

会 場 札幌市スポーツ交流施設「つどーむ」

## 1. 参加選手(計30名)

真鍋 陸・遠藤竜次・笠井郁弥・笥爪椋太(以上帯北アンビシャス)・清水 翼・島崎悠人  
武士沢開人(以上プログレッソ十勝)・山村拓未(浦幌中)・五十嵐友人(川西中)・伊藤大貴  
西田龍弥・中島響一(以上訓子府中) 河邊拓己・鈴木大翔・庄司航平(以上網走三中)・潮田陽太郎  
原田義貴(以上北見北中)・入江一輝(北光中)・塩谷研人(光西中)・曾我部和弥(網走四中)・伊藤圭汰  
工藤龍也・竹川薫紋・楠 大我・野瀬誉斗・森山泰地(以上R・シュベルブ)・沼澤翔真・稲部 怜  
(以上SC釧路)・佐々木史人(景雲中)・橋本航希(根室柏陵中)

## 2. スタッフ

・所 桂太郎(釧路) ・松本 健二(十勝) ・工藤 雅人(網走) ・伊藤 修(釧路)

## 3. はじめに

道東ブロックでは、この8人制交流大会に向けて11月の強化合宿(トレーニング及び網走U14とのマッチ)、12月のトレセンマッチ(各地区U14とのマッチ)で強化をはかってきた。メンバーは、8月に行われた道東ブロックトレセンに参加した選手32名をもとに構成し、合宿を通して32名をA/Bの2チームに編成した。(交流大会への参加は、2名キャンセルで30名)

交流大会は、8人制(10-10-15分の3ピリオド制。1・2ピリオドで全員が交代。3ピリオドが自由な交代)で行われ、Aは、道南A、道北A、道央A、札幌A、コンサ、HF AU13、Bは、道南B、道北B、道央B、札幌B、HF AU15女子、HF AU12とリーグ戦を行った。

## 4. 対戦結果

A			B		
<1日目>			<1日目>		
vs 道央A	2-5	●	vs 札幌B	2-3	●
vs 札幌A	1-13	●	vs HF A女子	5-2	○
vs HF AU13	2-14	●	vs 道央B	4-1	○
<2日目>			<2日目>		
vs 道北A	5-0	○	vs 道北B	2-4	●
vs 道南A	1-3	●	vs 道南B	0-12	●
vs コンサ	3-3	△	vs HF AU12	2-5	●

## 5. 道東の成果と課題

### <成果>

#### ○ボールの移動中にサポート

⇒ボールの移動中に味方に対してサポートが多くみられるようになった。A、Bチームとも角度やタイミングには課題が残る。

## ○優先順位の意識

⇒ボールポゼッションする中で、相手の裏を意識することでゲームが変わった。まずは、裏へ動き出しているトップを観ること。そこにチャンスがあるならそこが優先。ロングボールを蹴ること、ロングスロー（GK）することに抵抗を感じているようだが、観て判断があるのであれば、相手の裏へのロングパスは良い選択。

## ○動き出しのタイミング

⇒ボールを受けるときのタイミング（相手の裏への飛び出し・くさび）に改善が見られた。

## ○前を向く

⇒2日目のゲームでは、前を向くことを意識できるようになった。動きながらのターンの技術は課題。

## ○チャレンジ&カバー

⇒1stは粘り強い守備で追いつけることができるようになった。また、1stの粘り強さから2ndが狙いを持ってボール奪取する場面が多くみられるようになった。コミュニケーション（指示の声）は課題。

## 《課題》

### ●観ること・判断すること

⇒ボールを注視してしまう選手が多く、コントロールしてから考えている。相手の厳しいプレッシャーに対応できない。判断なく、無謀なドリブルやフィジカルで解決しようとしてしまう。

### ●動きながらのプレー

⇒ボールを止めてしまうことが多いため、相手にとって守りやすい。また、アクションを起こした後、そこで終わってしまうことが多い。（パスが出なかった後の動きなおし）

### ●キックの技術

⇒相手の裏を意識することができても、蹴ることができない。ロングボールを蹴ることになれていない選手が多かった。

### ●ターンの技術

⇒初日のゲームでは、プレッシャーを受けると簡単に後方のサポートへのパスを選択してしまうことが多かった。2日目は、前を向く意識が出てきたが動きながらのターンは課題。

### ●コントロールの質

⇒Bチームでは、特にコントロールに難を感じた。相手の厳しいプレッシャーに対応できず、コントロールミスでチャンスを失ったり、失点したりすることがあった。また、味方の速いパスに対して1stタッチが正確にできず、ボールを受けることで精一杯になってしまう選手も多かった。

### ●守備

#### Onの守備

⇒ゲームを重ねるごとに良くなっていったが、ボールを奪いに行くことができても、アプローチをした後、狙い続けることができなかった。アプローチ後、相手に粘り強く付いていくためのステップワークが課題。

#### Offの守備

⇒ポジショニング。特に逆サイドのポジショニング（観ておくことも）は課題。2日目、道南戦の2失点は、クロスからの失点。

⇒指示の声。2ndディフェンダーの指示による1stディフェンダーのチャレンジではなく、1stディフェンダーの判断によるものがほとんどであった。結果、2ndディフェンダーのカバーリングが遅れる場面も。

## 6. 全体講評

Aチームでは、ゲームを重ねるごとにサッカーの質が高まり、2日目の3ゲームは非常に良い内容であった。特に最終節コンサドーレとのゲームでは、今までのトレーニングの成果を十二分に発揮することができていたと思う。守備では、良いポジショニングからしっかりとアプローチ、粘り強い対応ができ、狙いを持ったカバーリングができた。また、攻撃では優先順位を意識したプレー、ボールの移動中のかかわりが多くみられた。ちょっとしたミスを突かれて失点したが、スコア以上に内容は良かったと思う。他地区のスタッフからも称賛の声をいただいた。

Bチームでは、ファーストゲームで相手の縦パスに対する守備を意識し、試合を重ねるごとに連携した守備になってきた。インターセプトや相手の自由を奪う守備が目立つようになった。攻撃面では、相手の裏のスペースをねらい、タイミングよくボールを供給する機会が増えた。また、裏をねらうことでできた中盤とトップの間のスペースを活用する場面をつくることができ、シュートチャンスや得点機会を増やすことができた。今回、11月、12月と強化を進めてきたが、その強化合宿でのトレーニングやマッチがどれだけ有効であったかということをお話している。

しかし、Aチームでも札幌やHFAとのゲームで10点以上の差をつけられていることは、道東として何よりも大きな課題である。その差を埋めるには、上記の課題を1つ1つクリアしていくことはもちろんのこと、普段の地区レベルでのゲームやトレーニングがよりシビアな環境で行われることが求められる。札幌との大きな差の1つは、普段の環境にあると思う。普段のゲーム・トレーニングがゆるいものであれば、当然、厳しいプレッシャーの中で自分のパフォーマンスを発揮することは難しくなるだろうし、逆もまた同様である。「守備」が良くなれば、それを打開するために「攻撃」が良くなる。「攻撃」が良くなれば、それを防ぐために「守備」が良くなる。このような相乗効果が得られる環境を道東全体で作り上げていきたい。

また、最後のゲームでようやくフィットした（12月のトレセンマッチでもフィットするまでに時間がかかった）ということも1つの課題である。フィットするのに時間がかかったということを考えると、強化合宿を実施していなければ、おそらくこのような成果は得られなかっただろう。また、トレセンの場だけではなく、普段から選手一人ひとりが、良い判断のもと良いイメージを持ってプレーすることができていれば、初日から道東のサッカーは違ったであろう。

道東には札幌やHFAの選手と比べて見劣りしないだけのポテンシャルを持った選手も多い。トレセンとして集まれる機会も限られている。最後のミーティングでも話をしたが、U13の道東ファミリー代表として戦った選手のみならず、特に普段の自チームでのトレーニングを大事にしてほしい。みんなが一番サッカーの時間を費やすのは間違いなくチームである。今回、道東で目指したサッカーを忘れずに、高い目標を持ってレベルアップを目指してほしい。

そして道東ファミリーから、北海道、日本を代表する選手に！

最後に、本大会に参加するにあたり、多大なるご協力をいただきました各地区協会関係者の皆様、遠くまで足を運んでくださいました保護者の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、今後とも道東ブロックトレセンの活動へのご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

文責：道東ブロックトレセンU-13 所 桂太郎  
工藤 雅人